

令和5年度 通常総会 開催

JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.if-ota.or.jp/>



令和5年6月30日10時30分、大分市府内町のコンパルホール「多目的ホール」において、令和5年度通常総会を開催した。
新型コロナウイルス感染症が5月8日から「5類感染症」の位置付けとなり、日常生活や経済活動が徐々にコロナ以前の状況に戻りつつあるなか昨年引き続き通常開催とした。

2 面
蒲江加工場
起工式



3 面
大分県
補正予算案

4 面
理事会等
開催結果

5~6面
総会特集

養マグロ
輸出急拡大
県漁業士会
全体研修会



7 面
水研だより

8 面
ロゴマーク
等を決定



総会当日の正組員数2542人中2043人が出席し(内、書面議決による出席1968人)、総会は成立した。

冒頭、中根組合長が挨拶。「水産業を取り巻く環境は資源の減少や飼料、資材等の高騰など引き続き極めて厳しい状況が続く。本年度も引き続き組織や業務の合理化を進め、さらには役員が率先して増資や債権回収に当たるなど、経営の改善に取り組み、組合員の経営安定と協同組合活動の発展に向け、役員一丸となつて精進する」とし、組合員の団結をお願いした。



佐藤知事
藤責挨拶

佐藤知事は「本県で2回目の開催となる全国豊かな海づくり大会のロゴマーク等が昨日決まった。県は県漁協と連携し、

大分の漁業の魅力を全国にアピールしたい」と連帯の言葉をいただいた。

議長に蒲江支店所属の茅野眞二氏を選出して議事に入った。

第1号議案「第21事業年度(令和4年度)事業報告及び損失処理案の承認について」、第2号議案「第22事業年度(令和5年度)事業計画の設定について」、第3号議案「第22事業年度(令和5年度)における理事、監事の報酬額の決定について」、第4号議案「第22事業年度(令和5年度)の賦課金、行使料とその徴収方法・時期の決定について」、第5号議案「第22事業年度(令和5年度)における借入金の最高限度額決定について」、第6号「第423号議案」共同漁業権及び区画漁業権の免許申請(取得)並びに行使規則の制定(認可申請)について」、第424号議案「総会の部会の設置について」、第425号議案「会計監査人の選任について」及び第426号議案「役員補欠選任について」の426議案を付議し、質疑応答を経て全議案が承認された。また、報告事項として「第21事業年度

(令和4年度貸借対照表・損益計算書及び注記表について)及び「行政庁検査に係る総会報告について」を説明した。

出席組合員からは、「本店販売事業の収支内容・実績」、「区画漁業権の適正な行使」及び「減損処理を巡る疑問点」等々について質疑があった。

総会終了後、第5回理事会を開催した。

第1号議案「業務報告書の行政庁への提出について」及び第2号議案「2023年ディスクロージャー誌の発行について」は総会議決内容であり承認した。

第3号議案「組合員の異動について」は正組員への資格変更4名、准組員への資格変更2名及び新規加入5名を承認した。

第4号議案「規程の一部変更について」及び第5号議案「役員報酬の決定について」は原案のとおり承認した。

協議・報告事項では、①余裕金の運用状況報告について及び②第43回全国豊かな海づくり大会関連事項について報告があった。



蒲江加工場の整備計画について



計画説明 新川哲浩参事

①事業の目的

水産物の輸出拡大を進める国により、本県も養殖ブリの産地に指定され、海外輸出に向けた加工体制の整備が必要。

当該施設の整備により、多様化する市場ニーズに対応した高加工度の生産体制を確立するほか、海外輸出に対応可能な出荷ロット等での生産体制を構築。

省力化と海外向け基準に対応した施設の整備により、衛生管理のもとで安定した加工品生産を実現し、組合員が長期・安定的に生産物を出荷できる体制を構築。

②施設の規模

1階 床面積1,220.97㎡、2階 床面積548.37㎡、塔屋 床面積89.35㎡、庇面積442.98㎡（総面積2,301.67㎡）

③主要な設備等

建屋、加工設備（ガッターマシン・フィレマシン）、包装機、ラベル機、冷蔵庫・冷凍庫、急速冷凍機、製氷機、廃水処理施設、フォークリフト他

④生産計画等〔フィレ加工等〕

- * 処理尾数：養殖ブリを主体に年間50万尾
- * 販売計画：年間 882,000千円

⑤事業関係

- (1) 工事監理業務
パシフィックコンサルタンツ(株)
 - (2) 本体建設工事
谷川建設工業(株)
 - (3) 生産設備機器納入業務
西日本インダ(株)
- ◆ 総事業費 2,192,882千円(税別)



地鎮之儀 中根隆文組合長



玉串奉奠 元吉俊博県議会議長



地元挨拶 田中利明佐伯市長



来賓祝辞 佐藤樹一郎大分県知事



来賓祝辞 水産庁漁港漁場整備部 田中部也部長

蒲江新加工場の建設を起工

産地高度加工、輸出を推進

県漁協は3日、佐伯市蒲江に新設する水産物加工処理施設の起工にあたり、安全祈願祭を執り行った。台風2号により風雨も懸念されたことから、畑野浦地区公民館に会場を設営し、中根隆文組合長をはじめ関係者約70名が出席した。

神事では、中根組合長と受注企業代表による地鎮の儀、各界による玉串奉奠が厳かに執り行われた。

直会で挨拶に立った中根組合長は、来賓として臨席をいただいた水産庁や大分県、佐伯市の指導や手厚い支援に感謝を表し、「水産業を取り巻く厳しい環境を克服するためには産地加工の一層の推進が必要。輸出

を含めた市場のニーズに的確に対応していく」と決意を述べた。

次いで、田中利明佐伯市長が地元を代表し挨拶し、佐藤樹一郎大分県知事、田中部也水産庁漁港漁場整備部長らが祝辞を述べた。佐藤知事からは「蒲江加工場の稼働は多様化するマーケットニーズに的確かつ迅速に対応し、養殖業の経営安定に大きく寄与する。輸出増も期待

され、コロナ禍からの回復を目指す大分県の経済にも大きな一歩になる」とエールをいただいた。

工事は本年度末に竣工し、令和6年度から施設が稼働し生産が始まる見込み。

なお、蒲江加工場の整備計画については、組合長挨拶に引き続き新川参事が説明した。概要は左のとおり。

5年度7月補正予算(案) 大分県

～新おおいた創造・発展枠を含め
農林水産部は78.5億円を計上～

本年度の県予算は、4月の知事選に配慮し骨格編成とされていたが(▽第151号2面参照)、新たに就任した佐藤知事は5月9日の定例会見において、5年度補正予算の編成方針を発表した。

補正予算の基本理念は、

- ①「安心元気」…誰もが安心して住み続けたい大分県づくり
- ②「未来創造」…知恵と努力が報われる、誰もが訪れたいと思う大分県づくり
- ③「共生社会」…多様性を受け入れ、支援が必要な人に寄り添う大分県づくり

の3点。市町村や各種団体など多様な主体と積極的に協力し、地方創生を更に前進させるとし、基本理念の実現にふさわしい新規政策の立案に向けて、20億円の予算特別枠「新おおいた創造・発展枠」を設定した。

これにより各部局から提出された要求状況が5月26日に、7月補正予算案が6月27日に公表された。補正予算案は473億円、当初(骨格)予算と合わせた累計額は7246億円となり、4年度当初予算額を67.7億円(0.9%)上回った。なお、補正予算案のうち66事業、21億円が「新おおいた創造・発展枠」の要望となっている。

農林水産部は、「安心元気な大分県づくり」を目指し、農林水産業創出額2650億円の実現のため農林水産業の成長産業化に向けた取組を進めるとし、補正予算案は78.5億円。水産業では漁船漁業の資源管理の徹底や養殖業の生産・流通体制の強化などの施策を迅速に進めると明記され、要求事業の概要は以下のとおり。

補正予算案は、7月5日に開会予定の第2回定例県議会に提案される。

(金額単位:千円)

事業名	5年度補正予算案 (累計額) (4年度当初予算)	事業概要	所管課
【特】 未来につながる養殖環境創生事業	60,333 < 60,333 > (0)	ブリ類養殖業の経営安定化を図るため、漁場環境改善に向けた調査等を実施するとともに、県漁業協同組合が行う出荷体制強化に向けた資機材等の整備を支援する。 ・ヘドロ対策シミュレーションの実施及び環境モニタリングの強化 ・養殖ブリ出荷調整生け簀など資機材整備への助成(補助率 5/6)	水産振興課
【特】 ヒラメ養殖業成長産業化支援事業	41,835 < 41,835 > (0)	ヒラメ養殖業の成長産業化を推進するため、他魚種に承認されている治療薬の承認拡大に取り組むとともに、省力化に向けたスマート技術の開発を行う。 ・既存治療薬のヒラメへの承認拡大に向けた治験の実施 ・赤潮センサーを活用した遠隔操作システム等の開発	水産振興課
【特】 海域戦略魚種増殖モデル構築事業	22,882 < 22,882 > (0)	効果的な資源造成による水産資源の回復を図るため、広域で取り組む新たな増殖モデルの構築を行う。 ・市場ニーズを踏まえた放流魚種の選定 ・放流適地の環境整備の実施	水産振興課
資源造成型栽培漁業推進事業	5,255 < 79,047 > (75,056)	【特】 漁業者の所得向上を図るため、新たな魚種の放流手法の確立等に取り組む。 ・キジハタ放流手法の確立と資源管理手法の検討	水産振興課
【特】 県産食材味力発信事業	11,700 < 11,700 > (0)	令和6年に開催されるデスティネーションキャンペーンを契機とした県産農水産物の消費拡大を図るため、県内飲食店等と連携したイベントを実施する。	おおいたブランド推進課
農林水産物輸出需要開拓事業	24,000 < 70,000 > (61,000)	海外の市場を取り込み農林水産業者の所得向上を図るため、ブランドおおいた輸出促進協議会等が行う輸出拡大の取組を支援する。 【特】量販店と連携したフェアの開催等による販路開拓・取引拡大など	おおいたブランド推進課

【特】は「新おおいた創造・発展枠」

詳細は県のHP～ <https://www.pref.oita.jp/site/zaiseisugata/r5.html>

令和5年度の事業計画等を承認 通常総会の招集・附議事項を決定

第4回理事会を開催

1日、5年度の第4回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入21人、相続加入3人、譲渡加入1人と正組合員への資格変更2人について承認した。

第2号議案「理事との融資契約について」及び第3号議案「令和5年度・同一人に対する信用供与限度額の設定について」は原案を承認した。

第4号議案「第21事業年度（令和4年度）事業報告及び損失処理案の承認について」は、協議・報告事項「貸借対照表・損益計算書及び注記表について」と合わせ説明が行われ、代表監事による監査報告が行われた後、原案を承認した。

第5号議案から第8号議案はいずれも第22事業年度（令和5年度）に係る議案であり、第5号議案「事業計画の設定」、第6号議案「理事、監事の報酬額の決定」、第7号議案「賦課金、行使料」とその徴収方法・時期の決定」及び第8号議案「借入金 の最高限度額の決定」について一括説明

があり、いずれも原案を承認した。

第9号議案「共同漁業権及び区画漁業権の免許申請（取得）並びに行使規則の制定（許可申請）について」は、漁業権の一斉更新にあたり県への免許申請等を行うもので、第10号議案「総会の部会の設置について」と合わせて説明があり、原案を承認した。

第11号議案「会計監査人の選任について」は、水協法第41条の2に基づき、監事会の決定を踏まえ、監査法人北三会社社を会計監査人として選任することが提案され、承認した。

第12号議案「役員補欠選任について」は、5月24日開催の役員推薦会議において監事候補として推薦することが決まった田中浩二氏（中津地区漁業運営委員長）について、監事に選任することを承認した。

第13号議案「令和5年度・通常総会の招集開催日時・開催場所・附議事項について」では、令和5年6月30日（金）午前10時30分からコンパルホール3F

「多目的ホール」において、原案の付議事項をもって通常総会を招集することに決した。協議・報告事項では、議案審議中で説明のなかった「令和5年度



小野会長(左)から感謝状を受ける須川委員(中)と阿部委員(右)

大分海区漁調委 第19回委員会

13日、県水産会館5階研修室で、第19回大分海区漁業調整委員会が開催された。

第1号議案「知事管理漁業の制限措置及び申請期間並びに許可の有効期間について」では、中津地区漁業者からの要望に伴う「小型機船底びき網漁業」及び「手繰第2種こぎ網漁業」について、諮問の内容で問題ない旨、知事に答申することに決した。

第2号議案「知事管理漁獲可能量の設定について」では、大分県まさば及びごまさば漁業区分の令和5管理年度における知事管理漁獲可能量を現行水準（目安数量4243トン）とする原案に異議ない旨、知事に答申することに決した。

第3号議案「連合海区漁業調整委員会に係る事前協議への委員派遣について」では、7月～8月に開催予定の「周防灘における小型底びき網の操業状況等に関する県内漁業者からの聞き取り」及び「豊予海域におけるまき網、はえなわ及び一本釣り漁業の入漁に関する愛媛との事前協議」に派遣する委員を決めた。

その他、知事管理漁獲可能量の追加配分のルールに従い、事後報告が行われた。

また、令和5年度第59回全国海区漁業調整委員会連合会通常総会について報告があり、連合会会長表彰を受けた須川委員及び阿部(義)委員に対し、小野会長から感謝状が授与された。

第2回 J F M B 大分県会議を開催

第2回会議においては、前回選定した不良債権上位20先を対象に、定められた様式に沿って、債務毎の基本情報、対処方針、回収目標等をまとめ報告した。債務者の状況は多様であり、対処方針も多岐にわたる。今回の報告に基づき具体的な措置を検討することとした。当漁協の負債の大宗を占める債務者について、理事全員で情報を共有し、対処方針を検討する意義は大きい。健全な漁協経営に向け、着実な回収等につなげたい。

・決算監査報告について「報告したほか、水産物加工処理施設（蒲江加工場）に関連し、5月26日に入札を行った生産設備機器納入業務の結果と3日の起

工式のスケジュールについて周知した。また、26日に第2回JFMB分県会議を開催することを報告した。

総会開催

ブランドおおいた輸出促進協議会

5月24日、トキハ会館カトレアの間において、5年度総会を開催した。4年度の事業実績と収支決算、5年度の事業計画と収支予算が承認され、県職員の異動に伴う役員改選が行われた。

4年度実績では、コロナ禍の渡航制限や物流混乱が改善に向かう中、会員等による販促活動が奏功し、輸出額は4.3億3千万円と過去最高額となったことが報告された。

水産物は次のとおり。
 【養ブリ】モジヤコ不漁により生産量は減少したが、単価の上昇や米国

等での需要回復により輸出額は増加した。

【養クロマグロ】中国済南市での東アジア文化都市事業と連携した販促活動により、取引が開始され輸出量が増加した。

5年度計画では、6年度輸出目標5.7億円を目指し、引き続き「相手を国」・「輸出品目」・「取引量」の拡大を柱に、戦略的な海外展開に取り組むとした。

水産物では、ブリ・クロマグロを中心に、既存輸出国での量拡大を目指したプロモーションに参加する方針。



飲食店をパートナー認定



「関ふり天井」24万食提供

4年度実績では、コロナ後を見据えて活動を活性化し、県内外での販促活動やPRイベントが増え、285回を超えた。

水産物では、パートナーシップ協定を量販店から飲食店に拡

6月9日、レンブランドホテル大分・二豊の間において、5年度総会を開催した。県と全市町村、農林水産関係団体が一堂に会し、4年度の事業実績と収支決算、5年度の事業計画と収支予算が承認された。



量販店で「かぼすブリフェア」

「The・おおいた」ブランド流通対策本部

大し、県産魚の利用を促進したこと、大手チェーン「天井てんや」で県漁協枋築加工工場と連携しハモ天井等を展開したことが報告された。

5年度計画では、流通販売戦略を加速し、福岡・大分DCなど大型イベントとも連携し、重点事項に取り組みとした。

水産物では、6年度開催の全国豊かな海づくり大会と連動した販促活動、建設中の蒲江加工場を活用した高次加工によるマーケットイン商品づくりの推進等があげられた。



中国・山東省輸入博覧会に出展

養クロマグロ輸出急拡大

令和4年度 農林水産物輸出実績

県は5月23日の知事定例会見において、令和4年度の農林水産物輸出実績を公表した。輸出額は7年連続で増加し、始めて40億円を上回った。

水産物を見ると、品目別で丸太に次いで多い「養ブリ」が約9億6千万円と1億円以上増加した。伸び率が大きいのは「養クロマグロ」で、前年の9倍となる約1億5千万円に急拡大した。これは、コロナ禍で途絶えていた中国向け輸出が再開するとともに販路も拡大したものの。

区分	(単位)	R4 (2022)	R3 (2021)	対前年		
				増減額	増減率	
農林水産物総額	(千円)	4,330,379	3,593,514	736,865	20.5%	
水産物総額	(千円)	1,417,063	992,765	424,298	42.7%	
主な水産物	養殖ブリ	(千円)	959,773	844,612	115,161	13.6%
		(トン)	766	787	-21	-2.7%
	養殖クロマグロ	(千円)	148,347	16,429	131,918	803.0%
		(トン)	51	6	45	745.0%
	養殖シマアジ	(千円)	13,815	35,646	-21,831	-61.2%
		(トン)	8	21	-13	-61.9%

県JF共済推進本部



中根組合長に表彰状を手交する深瀬常務理事(左)

16日、県水産会館5階研修室において定例総会を開催した。議事に先立ち、当漁協に対して共水連会長表彰が行われた。これは、「チヨコ」と「くらし」の加入が、いずれも前年度と比べて伸長したことに對する特別表彰。来賓として出席した全国共水連の深瀬茂哉常務理事が中根組合長に表彰状を手交した。議事では、設置規程の一部変更、2022年度活動報告、2023年度活動計画(案)及び漁協還元奨励策等が附議され、いずれも承認された。

県漁業公社

28日、県水産会館5階研修室において通常総会を開催した。4年度事業実績及び正味財産増減計算書、5年度事業計画及び収支予算、任期満了に伴う役員を選任等について説明があり、いずれも承認された。国東事業場の建替えに伴う上浦事業場での代替生産、光熱費や飼料の高騰が経営を圧迫したが、職員の努力で経常利益は確保できた」と報告があった。

県資源管理協議会

5月31日、県水産会館5階研修室において通常総会を開催した。4年度事業実績と収支決算、役員改選、5年度事業計画と収支予算案及び負担金案について説明があり、いずれも承認された。事業計画の中では、キジハタの中間育成に係る漁業公社への委託費がゼロ計上となったが、これは7月補正予算案において、資源造成型栽培漁業推進事業に「新おおいた創造・発展枠」として計上された(▽3頁参照)。

(株)佐伯魚市場

株式会社佐伯魚市場(嶋原隆之社長)は11日、第47期定時株主総会を開催した。第47期の営業報告及び決算第48期の事業計画及び予算等を承認した。第47期決算では若干の当期利益金を計上することができたが、繰越剰余金は依然マイナスである。株式の49.7%を保有する当漁協にも重大な影響を及ぼすことから、引き続き経営改善に努めるよう要請した。

県漁業士連絡協議会

6月10日、別府豊泉荘において、第25回通常総会を開催した。松原正隆会長(香々地・漁船漁業)の挨拶、大塚猛水産振興課長の来賓祝辞に次いで、森岡道彦氏(下入津・魚類養殖業)を議長に、小野宗一郎氏(上入津・真珠養殖業)を資格審査委員に選出。総会成立を宣言し議事に入り、4年度の事業実績と収支決算、役員改選、5年度の事業計画と収支予算を承認した。



4年度実績では、年間の経過報告の後、漁業種類ごとに設けられた部会等が活動を報告した。潜水漁業部会は「流木等を用いた簡易藻場礁の経過モニターリング」、まき網漁業部会は「活魚選別かご試験」、また魚類養殖業部会は「ICTを活用した環境モニターリング試験」など、それぞれ漁業が直面する問題の解決に向けた取組の成果を報告した。役員改選では、退任した役員に代わり、小野宗一郎氏(前出)を副会長理事に、山尾幹宣氏(津久見・まき網)を理事に、

総会開催



長崎県杵岐地区漁業士連絡協議会 指導漁業士 永村弘一氏

松浪誠氏(宇佐・底びき網)を監事に選任した。5年度の事業計画では、部会ごとの調査研究活動が発表された。女性部会は、部員数の減少と高齢化等により、残念ながら休部が検討されている。このほか、令和6年秋に開催予定の「第43回全国豊かな海づくり大会」の概要について、大会事務局から説明があった。総会に先立ち実施された「全体研修会」では、「漁業士会の活動について」魚のさばき方動画を用いた水産教室について」として、長崎県杵岐地区漁業士連絡協議会所属の永村弘一指導漁業士から講演をいただいた。

また、話題提供では、魚類養殖業部会が実績報告を行った「ICTを活用した環境モニターリング試験」の詳細について、南部振興局水産班普及員の竹尻浩平技師が説明した。

水 研 だ よ り

天然採苗した養殖オゴノリを収穫！ 北部水産グループ養殖環境チーム 中野奈央

周防灘や守江湾に自生している紅藻オゴノリ類は、寒天原料のひとつです。国産の流通は非常に少なく、流通されているのは中国やフィリピンからの輸入品です。

当グループは本種の増養殖技術を開発するために、2022年6月2日から天然採苗による養殖試験を実施しました。宇佐市和間地先の天然オゴノリ群落の近くに、ノリ網（5尺1間）1枚を縦方向に半分に折りたたんで張り、天然採苗を行いました。そして、その場所で引き続き養殖試験を開始しました。ゴミ等の付着があるので定期的な管理は必要でしたが、種苗は順調に生長し、2023年4月7日の測定で①天然採苗（日齢310日）の平均主枝長は29.1cm（最小～最大：19～32cm）でした。

今回の養殖試験（369日間）により、ノリ網（5尺1間）1枚、1mのステンレス製杭4本、インシュロック30本というわずかな資材（5,563円）で、5.4kg（湿重量）のオゴノリを収穫することができました（2023年6月5日）。

なお、人工採苗による養殖試験も行い、天然採苗と同様に良好な結果が得られました。

今年度は、人工採苗由来の成熟個体を母藻に用いた人工採苗を実施し、種苗の量産化と天然資源に依存しない完全養殖技術の確立に取り組みます。



写真1 ノリ網を設置して天然採苗(2022年6月2日撮影)



写真2 収穫時の天然採苗オゴノリ(2023年6月7日撮影)

水産研究タイムリー情報

キジハタの種苗生産に向け採卵
(北部水産グループ 資源増殖チーム)病気に強い養殖ヒラメの選抜育種
(水産研究部 企画指導担当)赤潮研修会を開催
(水産研究部 養殖環境チーム)早期採卵マガキの養殖試験
(北部水産グループ 資源増殖チーム)人工種苗ヒジキの生産を開始
(北部水産グループ 養殖環境チーム)



第43回 全国豊かな海づくり大会

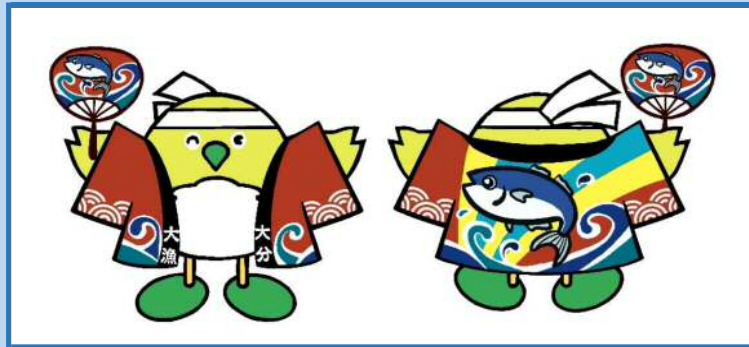
大会テーマ・めじろんコスチューム 大会ロゴマーク

決定!

大会テーマ

つなぐバトン 豊かな海を 次世代に

めじろんコスチューム



大会ロゴマーク



第43回大会の「大会テーマ」等が決まった。大会を県内外に広く周知するとともに開催機運を高める目的で、昨年10月から募集していたもの。応募総数は延べ3000点を超え、2回の審査委員会と実行委員会の幹事会を経て、29日の委員会で最優秀賞(採用作品)が選定された。



サカナを食べれば
幸福が見えてくる

ウオメシ

今回は津久見駅前の「四季彩・源兵衛」の海鮮丼が登場。一度試してみたかったお店で、市内中田地区のアジサイ畑を散策したあと立ち寄った。津久見には、亀吉、もくれん、浜茶屋など美味い海鮮を出すお店があるが、この店も秀逸だった。写真は海鮮盛のアツプだが、このほかに海苔を散らした白飯、吸い物、小鉢、茶碗蒸しなどが付く。2080円以上の価値ある御馳走だ。次回はJRで出かけて、一杯飲みたいたいものだ。

6月の「県産魚の日」は第4金曜日の23日、おさかなランド明野店、わさだ店の2店舗で開催。白杵産のマダイ、マアジ、タチウオ、カマガリ、佐賀関産のイサキ、マアジ(関あじ)、マダイ等を特売した。明野店ではマアジ、わさだ店ではタチウオの売れ行きが好調だった。恒例となった豪華賞品が当たる抽選会も好評だった。

佐賀関 SAGANOSEKI | 佐賀関 SAGANOSEKI | 佐賀関 SAGANOSEKI

佐賀関 FAIR

SAGANOSEKI

6/23 (金)

USUKI

白杵 FAIR

白杵 USUKI | 白杵 USUKI | 白杵 USUKI | 白杵 USUKI

編集後記

総会も無事終わり、巻頭が埋まった。あとは編集後記のみ。総会の質疑で思うのは「地域ならではの課題だけど、地元ではなかなか解決しないんだな」ということ。言いたいことが半分もわからない発言もあったが、丁寧には対応したつもりだ。総会前、コンパルの図書館で予約した本を借りた。複数予約するのでの本かは忘れていたが、受け取って笑ってしまった。田村耕太郎著「頭に来てアホとは戦うな!」。自戒を込め、机の上に置いて総会に臨んだ。

